

第 14 回 会 議 録

会議名	<input checked="" type="checkbox"/> 編さん委員会 <input type="checkbox"/> 編集委員会 <input type="checkbox"/> _____部会
-----	---

令和4年 8月25日	開催場所	中央公民館中会議室 午後3時00分～3時50分
出席者・委員	林市長・水谷副市長・宇野教育長・宇納教育委員会代表・杉浦文化財保護委員会代表・大橋小中学校校長会代表・近藤文化協会代表・大平区長会代表・西宮編集委員会代表・寺田教育部長	
事務局	中野課長・近藤課長補佐・伊藤・木全	
<p>1 あいさつ (省略)</p> <p>2 委嘱、委員紹介 (省略)</p> <p>3 報告 (1)令和3年度活動実績について(資料1)</p> <p>事務局：資料1をご覧ください。編集委員会につきましては、各部長にお集りいただき市史の執筆や編集の方針に関することをご検討していただいております。令和3年度につきましては5、8、10、11月の計4回開催いたしました。主な審議内容は、通史編1の刊行状況や通史編2の進捗状況、体裁、執筆要綱、刊行工程等と(仮称)ジュニア編についてとなっております。</p> <p>続きまして各部会について報告させていただきます。考古、古代・中世、近世部会につきましては令和2年度をもって活動が終了しております。また、資料1にはございませんが自然、民俗、文化財部会につきましても活動が終了しております。そのため、令和3年度において活動している部会は近代・現代部会のみとなっております。近代・現代部会では、通史編2刊行のため令和3年度において計14回部会を開催しております。部会の主な内容は通史編2の章立てや中間報告、原稿読み合わせとなっております。</p> <p>次に、八橋グループにつきましては令和元年度に『新編知立市史 別巻 八橋編』が刊行され、その刊行記念講演会を予定しておりました。しかし、コロナウィルス感染症により活動を自粛しており、そのため令和3年度における活動はできなかった次第であります。</p> <p>最後に(仮称)ジュニア編につきましては、令和5年度の刊行に向けて編集委員会および事務局において準備を進めてまいりました。その他の活動といたしましては資料調査、デジタルデータ化、知立市史だよりの発行となっております。詳細につきましては資料1をご覧ください</p>		

ますと幸いです。以上で、令和3年度活動実績の報告とさせていただきます。

林会長：ご質問はございませんか。

委員：特に無し。

林会長：ご質問はないようです。それでは、次の報告事項に移ります。

(2) 令和4年度活動計画について(資料2)

事務局：資料2をご覧ください。まず、編集委員会につきましては5、7、9、11、2月と計5回の開催を今年度は予定しております。すでに開催しております5、7月の編集委員会では(仮称)ジュニア編について等をご審議いただいております。(仮称)ジュニア編の編集につきましては新たに部会を設けることはせず、編集委員会において審議を進めている状況となっております。その他の考古、古代・中世、近世部会につきましてはすでに活動を終了しております。また、近代・現代部会につきましては令和3年度をもって活動を終了しております。八橋グループにつきましては、刊行記念講演会を実施できていないため令和4年度の実施を検討しております。

次に(仮称)ジュニア編につきましては、令和5年度刊行に向けて編集委員会および事務局とで審議をし、ただいま原稿の提出をお願いしている状況です。その他の活動といたしましては、資料調査、デジタルデータ化、知立市史だより発行を予定しております。詳細につきましては資料2をご覧くださいと幸いです。以上で、令和4年度の活動計画の説明となります。

林会長：ご質問はございませんか。

委員：特に無し。

林会長：ご質問はないようです。それでは、次の報告事項に移ります。

(3) 『通史編 近代・現代』の頒布・販売について(資料3)

事務局：資料3をご覧ください。『新編知立市史2 通史編 近代・現代』につきまして令和4年7月31日刊行することができました。当初の計画では令和3年度の刊行を予定しておりましたが、編集作業等の遅れにより令和4年度への繰越となってしまいました。誠に申し訳ありません。編集は知立市史編さん委員会、発行は知立市となっております。印刷業者につきましては指名競争入札により西濃印刷株式会社となっております。刊行部数につきましては1,000部であり、その内450部程度を関係機関等に謹呈し、残りを一般販売とします。

一般販売につきましては令和4年8月27日から開始であり、販売価格は税込み2,000円であります。知立市歴史民俗資料館の他、知立市役所1階市民課窓口、知立市観光交流センターで販売をしております。また、PRにつきましては『広報ちりゅう』やホームページ、報道記者発表、市役所の電光掲示板等を通じてして参ります。平成22年度に刊行された『新編知立市史5 資料編 池鯉鮒宿本陣御宿帳』をはじめとした新編知立市史につきましては、通史編2巻、資料編6巻、別巻2巻の計10巻を刊行することができました。残すところは(仮称)ジュニア編のみとなります。以上で説明を終えさせていただきます。

林会長：ご質問はございませんか。

委員：特に無し。

林会長：ご質問はないようです。それでは、次の報告事項に移ります。

(4) (仮称)ジュニア編について(資料4)

事務局：資料4をご覧ください。新編知立市史編さん事業で得られた知見を子どもたちの郷土学習に活用できるようにと(仮称)ジュニア編は計画されております。書名につきましては、現時点で正式名称は未定であります。事務局案として『はじめての知立市史』、『ちりゅうの歴史ことはじめ』、『ちりゅうの歴史をたどる』、『歴史探求 知立』を挙げておりますが、今後編集委員会で審議をし、決定していければと考えております。編集、発行につきましては新編知立市史同様に編集が知立市史編さん委員会、発行が知立市となります。執筆者につきましては、知立市史編集委員会代表である西宮先生、各部会長、その他これまで市史を執筆された方をお願いをしているところです。体裁についてはA4判、横書き、並製本、オールカラーとなります。また、総頁数は約100頁、部数は1,000部、予定価格は1,000円程度で想定しております。刊行につきましては令和6年3月予定です。コンセプトにつきましては、①知立市の歴史の特徴を簡潔にわかりやすくビジュアル重視で紹介。②対象は知立に初めて来た人や知立の予備知識がない人(高校生以上)を想定しております。編集内容や構成につきましては、編集委員会において審議しており、執筆に取り掛かっていただいております。(仮称)ジュニア編につきましては、以上となります。

林会長：ご質問はございませんか。

委員：特に無し。

林会長：ご質問はないようです。それでは、次の報告事項に移ります。

4 その他

林会長：せっかくの機会でございますので、全体を通してご質問やご意見、ご助言等ございましたらお知らせいただければと思います。尚、西宮委員には最後にご意見等いただきますのでよろしくお願いいたします。

近藤委員：編集委員会の方々がかきちんと指導していただき、まとめてくださっている成果として、『新編知立市史 2 通史編 近代・現代』が刊行されているかと思えます。旧市史と比べ、書架に並べた際に非常に映える色となっており、手にとり読んでみたいと思わせるようなものになっているなど思えます。また、自治体史として格を感じさせるようなものであり、かつ税込2,000円で実現できていることを素晴らしいと思います。知立に住んでいる身としては、みてみたい、知ってみたいといったところがたくさんありますので、これからの知立を背負っていく若者たちに知立を好きになってもらえるようなジュニア編にしていいただければと思います。また、知立のものを残していける形をとっていくのが私たちの役目だと思っております。編集委員の皆様にはご苦勞をおかけしていると思いますが、新編知立市史といった形で手にとりいただけるような機会をつくっていただきありがたく思っております。様々なところで紹介し、より皆様にお買い求めいただけるような方法をとっていただければと思っております。私からは以上となります。

大橋委員：私が勤めております来迎寺小学校は昔ながらの文化が残っている学校の一つだと思っております。コロナの影響により、地域交流が中々できておらず文化の断絶を心配しております。SDGs 未来都市の認定に伴って本校においては、総合的学習の過程でSDGsを全面に出し進めております。その中で、社会科の人間としては地域の文化・歴史をテーマにどこかの学年でやってもらいたいと思っております。しかし、調べながら進めていくにあたり、難易度を含めた資料の問題やそれを指導する教員の知識量といったところで敷居が高いところではありますので、ジュニア

編にはそういったところを含めて期待しております。また、今回いただきました『新編知立市史 2 通史編 近代・現代』については表紙の色がとても美しいなと思います。中身につきましては、自分たちが生きている時代に近い内容となっており、読みやすいのではないかなと思う次第です。また、今後ともよろしく願いいたします。私からは以上となります。

杉浦委員：ジュニア編の必要性として“これまで刊行した通史編や資料編への手引きとなることや、市内の小中学校など教育現場での活用が期待される”と資料 4 に記載されていますね。この部分については学習指導要領等でも郷土の歴史や文化を知り、これからは活かしていくことや学んでいくことが言われています。しかし、その意味で考えるとジュニア編は高校生以上が対象ではあるが入口にしてほしいなと思います。ただ、大橋委員が先ほどおっしゃられたように授業をしようとなると資料として何を使うのかといったことは難しいところではあります。そのため先生方にはジュニア編を読み、学んでいただき、どういった指導のプランができるかを考えていくことが今後の課題になってくるのではないかと思います。私からは以上となります。

宇納委員：教育委員からの立場というより一市民として『新編知立市史 2 通史編 近代・現代』の感想を述べさせていただきます。西宮委員がいる手前、非常に申し上げづらいことではあるが、通史編 2 については文章がちょっと堅いなというのが率直な感想であり、もう少し食いつけるような資料を用いてジュニア編を作っていただければと思います。もちろん資料として新編知立市史は正確を期して記述されているかと思われませんが、これからの知立の若者たちが知立に関心を持っていただくためにとつきやすいような言葉やテーマが必要ではないかというのが僕の感想になります。これからの知立を担っていく若者たちが、探求心をもってこの先の知立について考えさせるような情報を盛り込んだジュニア編にしていいただければと思います。私からは以上であります。

大平委員：知立ならではの特色を考えたときに、私は馬市であると思います。ジュニア編の書名候補として『馬市があった知立』といったように“馬市”といったキーワードをいれていただくことより手にとって読みたくなるのかなとふと思った次第であります。私からは以上です。

西宮委員：不手際により、刊行が遅れたことは大変申し訳なく思いますが、通史編 2 の刊行をもって新編知立市史は全巻そろいました。完結した新編知立市史はこの先 10 年以上残るに堪えるように編集委員会では努力をしました。旧市史が編さんされてから 40 年ほどたっており、読み比べていただけると、どれほど資料発掘の技術などが進化しているのかおわかりいただけるかと思います。内容につきましては、中々難しいところがあり、すべて通読するのは困難かと思います。しかし、専門家の方々が資料をもとに今までわからなかったことを可能な範囲で、かみ砕きながら市民向けに書くということを一応念頭に書いたつもりであります。他の市町村史と比べても、知立市史が突起して難しいわけではないことだけはこの場でお話させていただければと思います。市史全 10 巻を通読するのは中々大変であるが、知りたいと思うところを辞典代わりとして通史編でみていただければと思っております。

ジュニア編につきましては、十数年前に新行先生が想定されていたものはおそらく小学校の副読本のようなものかと思います。十数年前のジュニア版といった場合には副読本のようなものが通例であったため、そういった想定になっていました。ただ、時代が変わり、最近のジュニア版では、高校生ぐらいのレベルでないと深く知ってもらえないといったところがあります。編集委員会で議論を重ねたところ、新行先生がご発案した時代と今は異なっているということで、今の編

集委員会にてジュニア版を考えていきたいという意見が多くありました。そのため、少なくとも高校生以上で想定しなければならないと思う次第であります。本当であれば小学生版・中学生版・高校生版、大人版と4種類で対応しなければならないところを1冊で対応することはものすごく難しいことでもあります。ただ、市史を通して集めた資料を解釈して、新しい知立の歴史を通史編で書いたという自負がありますので、それに基づいてトピックとして面白いところや、全国的にみた際に知立でしかみられなく、かつ知立の子どもたちに知ってもらいたいものを精選し、項目を挙げて書いていければと思っております。課題としては、ジュニア編を含めた市史の対象が小中学生以上であるため現場の先生方に読んでいただき、勉強したうえで子どもたちに伝えていけるようなジュニア編を目指し、執筆および編集をしなければならないといった点であります。進捗状況としては、目次案が出そろい、今後精選していった後に執筆といった流れであり、皆様のご期待にそえるような本を刊行できればと思う次第であります。私からは以上であります。

林会長：ありがとうございます。ご苦労いただいているのがよくわかります。今の話において小中学生に教える場合、これまでの新編知立市史や、ジュニア編を学校の先生方に読んでいただき、小中学生にかみ砕いてお話していただければという話でありますよね。

西宮委員：そうですね。小中学生が読んでわかる範囲であればそれはそれでいいが、中には難しくそういわけにはいかないところもあります。そういったところを先生方がかみ砕いて説明していただくといったご努力をしていただきたいというのが本音のところですよ。

林会長：そのあたりいかがでしょうか。

宇野委員：はじめに、市史編さんにあたりまして皆様のお力添え誠にありがとうございます。ジュニア編の内容にも依りますが授業に活かせるかどうかと言われると活かすことは難しいかと思われま。今の話を聞く限り、ジュニア編が高度なものとなっていると思うのでその中から選び、子どもたちに何を教えていくのかを考えていくと、ある程度のものをもう一つ作っていかないと難しいと思われま。その点でいえば、さらに概要版といったものが必要になるかと思いま。小学校でいえばすべての教科を教えている中、社会科の一部分として、中学校でいえばそれぞれ専門教科がある中で知立市史について教えていくとなると難しいところあります。

西宮委員：ジュニア編ができたからといって、簡単に左から右に流すかのように授業に活かすのは難しいところあります。そのため、先生方には活かすための工夫等をしていただきたいと思いま。簡単に活用できるものをとすることであれば、先ほどおっしゃられたような概要版といったもので小学校版・中学校版・高校生版・大人版といったものを設定しなければならないのではないかと思いま。そのためジュニア編1冊でそれら4つを兼ねるといのはどうということなのかを非常に悩んでいるところですよ。

林会長：小学校版・中学校版・高校生版・大人版といったものは予算があれば作れるという話であるのか、それともレベル別に設定して作るの難しいという話であるのかどちらになりますでしょうか。

西宮委員：編集委員会のメンバーは大学の先生であるので、もし小学校版・中学校版を作ろうとするのであれば各学校の現場の先生が努力して作っていく方が良くかと思いま。ただ、知立市の中でどれがトピックになるのか、また新たに知立市に転入してこられた方が知立市について知れるようにすることを考えていくと多少レベルを上げなければならないと思いま。

ジュニア編という名称ではあるが、通史編のダイジェスト版として知立市史のエッセンスを盛り込んだうえで項目を立てたいと思っております。そこからどのように発展させていくのかは現場の先

生がご努力されると、より先生方の理解と子どもたちの理解が深まると思います。そういったことを考えつつ、ジュニア編は吟味しながら進めている次第であります。

林会長：ありがとうございます。大橋委員は社会の先生だとおっしゃられていましたね。ジュニア編にはこれまでの知立市史エッセンスを盛り込み、かみ砕いて説明するなど楽しみだなと思う一方、せっかくの機会であるので小中学校の子どもたちに学んでほしい中で、先生たちでジュニア編をもとに研究することはできそうでしょうか。また、予算を出してほしいということであればダイジェスト版を私たちとしては考えていきたいと思うところですが、そのあたりについてはどう思われますか。

大橋委員：今の小中学校のカリキュラムでいうと、地域の歴史を学ぶ時間はほとんどない状況であります。小学校でいうと3、4年生が地域学習として知立市のみに関わらず西三河など広げてやっており、それは歴史だけでなく、例を挙げると消防署についてといった今の生活についてしかやれておりません。中学校になるとさらに厳しく、地域の歴史について学ぶことができる時間は数時間ぐらいしかない状況ですので、社会科でやるとすると厳しいところがあります。仮に総合的学習の時間を使ってやるとなればできるのではと思います。そうすることで各学校、自由に学習内容を決めることができるようになります。来迎寺小学校ではSDGsを大きなテーマとしてその中で環境やジェンダー問題、平和問題についてやっております。そういった中の一つとして、子どもたちと一緒に地域の歴史を学べるような時間と人材があったら良いなと思います。そういった意味でやらなければならないのではなく、やれる学年、やれる先生を中心にやっていき、徐々に広がっていければと思う次第であります。

働き方改革もあり通常の業務に加え地域学習のための資料を一から探すことが難しい状況下で、こういった知立市史といったものがあるのは非常にありがたいと思います。さらに、先生方の中にはもう少し手軽に読めるものがあればいいなと思う方もいると思うので、そういった点でジュニア編もありがたいと思う次第です。はじめ、ジュニア編と聞いた際、対象は小中学生をイメージしていたが、そういった意味ではなく通史編や資料編の入り口になるようなものであり、段階的にいうとジュニア編、通史編、資料編なっている構想になっており、よく考えられているなと思いながら聞いております。私からは以上になります。

林会長：ありがとうございます。そういった方向性の中で、身近に感じてもらえるような表現や、手に取って読みたいと思ってもらえるような工夫等をしていただければというところをお願いしたいと思います。

林会長：以上をもちまして、本日の会議を終了します。

事務局：これをもちまして第14回知立市史編さん委員会を終了します。本日は誠にありがとうございました。